年 次 報 告 書

平成 29 年（2017 年）度

4年間の学びを、力に変える大学。

敬愛大学 地域連携センター

皆様へ

ここに平成 29 年度の敬愛大学地域連携センターの年次活動報告書を、お届けします。無事一年を通じて業務を推進できましたのも、日頃のご協力と温かいご支援のおかげです。先ずはこの場を借りて、すべてのステークホルダーの皆様に厚く御礼申し上げます。

さてこのセンターは昨年 4 月 1 日に発足しましたが、本文中でも触れておりますとおり、その前の約6か月間を費やして、IR企画室（現：IR・広報室）室員であった塚越武美氏（現：法人運営室主幹）の多大な貢献による設立準備を行った上での船出でした。塚越氏のおかげで、順調に組織運営をスタートさせることができました。

組織の所管業務は、組織規程に謳われているとおり、①産学官の連携及び地域・社会貢献に関すること、②それまで大学運営室が所管であった生涯学習講座運営事業、③同じく学生支援室が所管であった地域行事・ボランティア活動などの学生主体の諸活動、そして④地域連携に関わる大学内の窓口業務の4つが、主な業務であります。

センター長としては非常に有難く思っていることですが、持前のバイタリティと熱い志で、期待以上の活躍をしてもらった藤森事務室長を学生支援室から異動発令いただき、縦横無尽、東奔西走のごとく1年間を業務に邁進してもらったことを述べさせていただきます。その具体例をいくつか挙げますと、先ず 8 月には「宮城ボランティア 2017」「英語教師授業力ブラッシュアップセミナー」を無事に実現し、10 月には大学祭（敬愛フェスティバル）の一企画として開催した、本学で初めての「パラスポーツ交流会」を実施、さらに 11 月～12 月にかけては生涯学習事業の駅前センター拡張に関する学園内決裁を取得（本年 4 月から 2 教室体制に拡大運営を開始しました）、1 月には千葉市内のほぼすべての大学をお誘いしての「千葉市内大学間研究会」の実現、さらに年度末の 3 月には「千葉市長と若者が語り合う会」への学生派遣を実現、などがあります。数え上げればきりがありませんが、初年度とは言え、実にやりがいのある、意義深い業務が続きました。

とはいえ限られたスタッフで運営している関係上、行き届かないことも多々あり、課題も多々同定してきました。これについては、平成 30 年度以降に改善されるように期待しています。

大学の地域連携センターとしてスタートし、一年目の事業は無事終了しました。しかし学長・理事長からは中長期的には学園全体の地域連携センターに組織拡大を視野に入れているとの指示もいただいています。この一年間の成果に甘んじることなく邁進してまいりますので、今後とも皆さまのご支援、ご高配を心からお願い申し上げます。

2018 年 4 月吉日
敬愛大学地域連携センター長
小阪　新造

1. 沿革

（生涯学習講座）

平成 18 年	4 月	敬愛大学生涯学習講座の開講準備を、総務課（現：大学運営室）およびメディアセンターにて開始。
	7 月	生涯学習講座募集開始、全 24 講座を開設。
	9 月	生涯学習講座開講、年度末までに延べ 751 名が受講。
平成 19 年	4 月	所管部署が総務課に変更。
平成 20 年	12 月	稲毛キャンパス新館（3 号館）の竣工に伴い、生涯学習教室（3301 教室）が設置される。
平成 21 年	4 月	事務分掌再編に伴い、所管部署名が大学運営室に変更される。
平成 28 年	4 月	講座、受講者情報の管理および受講料収納の円滑化のため、受講料のコンビニエンスストアでの支払決済システム、セカンドアカデミー株式会社の運営基幹システム Smart Academy を導入。
平成 29 年	4 月	地域連携センターの新設に伴い、所管部署を大学運営室から移管。

（ボランティア活動、地域連携事業）

平成 21 年	4 月	事務分掌再編に伴い、教務学生課学生係が学生支援室に改組。
平成 23 年	3 月	東日本大震災が発生、有志学生によるボランティア活動が活発化。
平成 23 年頃から		学生支援室において学生の正課外活動の活性化のため、ボランティア活動や地域の町内自治会・商店街、稲毛区役所などとの関係を深めはじめる。
平成 23 年	9 月	教員主導による「宮城ボランティア」が開始。
平成 27 年	3 月	キャリアセンターの主導で、千葉市の間で「地域経済活性化に関する連携協定」を締結
平成 27 年	5 月	学生支援室内に、ボランティアセンターが設置される。
平成 28 年	4 月	「宮城ボランティア」の主管が、ボランティアセンターに移管。
平成 29 月	4 月	地域連携センターの新設に伴い、所管部署を学生支援室から移管。

（地域連携センター事業）

平成 29 年	4 月	地域連携センターの新設に伴い、大学運営室、学生支援室およびIR企画室（現：IR・広報室）から関連事業を移管。 なお地域連携センターは、IR・広報室と同様、学長直属の部署として設置された。

2. 歴代管理職

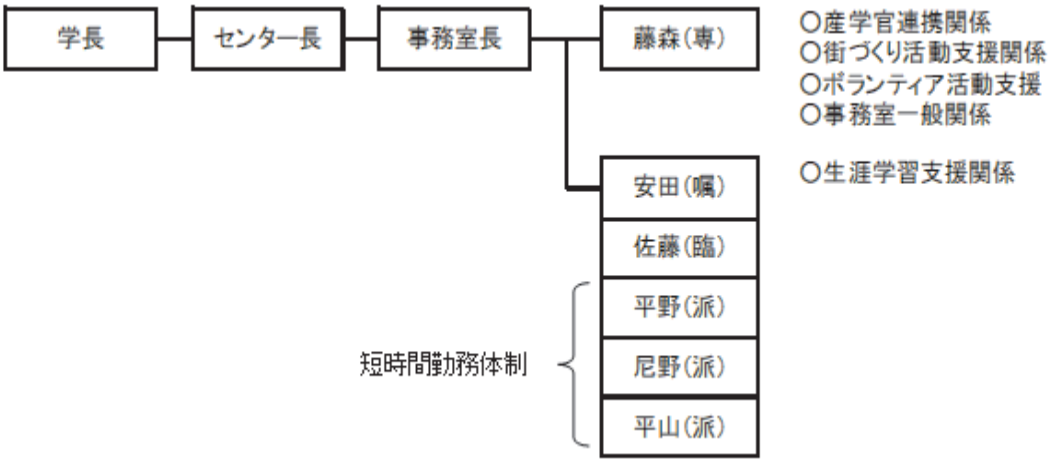
平成 29 年 4 月 1 日地域連携センターの開設に伴い、

センター長に、小阪新造（前・法人運営室員）が就任。

事務室長に、藤森孝幸（前・学生支援室主幹）が就任。

現在に至る。

3. 組織



センター長	小阪　新造（IR・広報室長を兼務）
事務室長	藤森　孝幸
室員（嘱託）	安田　勝也
室員（臨時職員）	佐藤　真理子
室員（派遣社員）	尼野　綾子、　平野　綾子、　平山　奈保子

なお生涯学習支援関係のため、生涯学習委員会（委員は両学部若干名）を設置している。

平成 29・30 年度は、経済学部 1 名（粟屋仁美教授）と国際学部 1 名（山本陽子教授）が各々の学部において選出されている。

4. 地域連携センター 設立の経緯

以下の①～④の背景から、学長・理事長の指導の下、平成 28 年 10 月から、学園法人運営室の小阪新造室員と大学IR企画室（現・IR・広報室）の塚越武美室員が、地域連携センターの設置に向けた準備に取り組んできた。

①学校法人千葉敬愛学園「基本構想 2014」

重点基軸4項目中、第3項目に「地域との関わりを重視し、愛される学園運営をすること～地域の伴走者」が挙げられた。ここでは「殊に地域との関わりについては、政府の注力する地方創生地域活性化の観点から、地（知）の拠点として地域との連携を深め、地域に必要とされる存在となるように努めていく」と、学園の方針が明示された。

②新中期経営計画（2015年度～2019年度）

「基本構想 2014」に基づいて 2015 年度にロードマップの作成が行われた。

③平成 29 年度部門別事業計画

◆重要実施項目

4. 地域との関わりを重視した取り組みを継続するため、地域と連動した諸行事や大学及び駅前学習センターを活用した事業を更に推進する。

◆2017年度までの現状と課題

4. 生涯学習講座の拡充、稲毛駅前商店街との連携等、本学の地域連携は着実に前進した。本学のプレゼンス向上と社会的責務を具現化する全学的な地域連携組織の立ち上げが急務である。

④平成29年度文部科学省私立大学等総合改革支援事業が意図する、大学のあり方の明示

◆タイプ2「地域発展」

地域社会貢献、社会人受入れ、生涯学習機能の強化等を支援

◆タイプ5「プラットフォーム形成」

各大学等の特色化・資源集中を促し、複数大学間の連携、自治体・産業界等との連携を進めるためのプラットフォーム形成を支援

これらを受け、主に大学運営室（生涯学習講座）と学生支援室（ボランティア活動、地域連携事業）が取り組んできた各事業を一元化し、平成 29 年度大学組織として、学長直属部署である地域連携センターが発足した。

5. 地域連携センターの位置づけ

①地域連携センター規程（平成 29 年 4 月 1 日施行）

◆第 2 条（目的）

センターは、敬愛大学の地域連携、地域貢献の総合窓口として、地域社会、行政、企業との連携を深め、地域の発展に寄与するとともに、本学の教育研究機能の充実を図ることを目的とする。

◆第 3 条（業務）

センターは、前条の目的を達成するために次の業務を行う。

（1）産学官連携及び地域・社会貢献に関する事項

（2）生涯学習・公開講座に関する事項

（3）地域行事・ボランティア活動等の情報統括に関する事項

（4）地域連携に関わる大学内の連絡調整および窓口業務に関する事項

②平成 29 年度部門別事業計画

◆2017年度実施項目

重点基軸1：個性と特色のある教育機関とすること～底力と伸びしろ～		
ボランティア活動の充実 〔学生支援室〕 〔学生部委員会〕	■参加への働きかけの工夫 ■サービスラーニングの充実と学生満足度の向上	・震災復興ボランティアの継続 ・事前事後指導の工夫と充実

重点基軸3：地域との関わりを重視し、愛される学園運営をすること～地域の伴走者～		
地域連携・地域貢献 〔地域連携センター（仮称）〕 〔学生支援室〕 〔学生部委員会〕 〔大学運営室〕 〔生涯学習委員会〕 〔総合地域研究所〕	■地域中小企業向けの人材育成プラットフォーム ■地域との関わりを重視した諸行事の開催・運営 ■地域と連携した生涯学習講座の充実と受講者の増加（2200名） ■地元商店街との連携事業の推進による地域貢献 ■県立高校との連携・協働 ■総合地域研究所による共同研究の活性化	・人材育成プラットフォームの運用と検証・改善 ・地域と連携した学校行事の開催と地域行事への学生の派遣 ・大学及び駅前学習センターの活用 ・「商店街活性化研究会」による課題解決への取組み ・＜教員基礎コース＞出張授業 ・シンポジウムへの地域有識者の招聘 ・連携事業を活かした共同研究の活用

6-1. 平成 29 年度実績（生涯学習講座）

① 講座数、受講者数 （ビジネス講座、公開講座を除く）

講座数			28年度	29年度	差
前期	有料講座	計画	163	145	−18
		開講	115	116	1
		開講率	70.6%	80.0%	9.4%
	無料講座	開講	2	3	1
	小計	開講	117	119	2
後期	有料講座	計画	163	142	−21
		開講	104	103	−1
		開講率	63.8%	72.5%	8.7%
	無料講座	開講	3	1	−2
	小計	開講	107	104	−3
年間	有料講座	計画	326	287	−39
		開講	219	219	0
		開講率	67.2%	76.3%	9.1%
	無料講座	開講	5	4	−1
	小計	開講	224	225	1

受講者数			28年度	29年度	差
前期	有料講座	申込者数	1106	947	(159)
		取消＊	199	92	(107)
		受講者数	907	855	(52)
	無料講座	受講者数	34	37	3
	小計	受講者数	941	892	(49)
後期	有料講座	申込者数	909	973	64
		取消＊	162	138	(24)
		受講者数	747	835	88
	無料講座	受講者数	33	11	(22)
	小計	受講者数	780	846	66
年間	有料講座	申込者数	2015	1920	(95)
		取消＊	361	230	(131)
		受講者数	1654	1690	36
	無料講座	受講者数	67	48	(19)
	小計	受講者数	1721	1738	17

＊取消：閉講講座およびキャンセルにより受講しなかった人数を指す。

講座の企画にあたっては、受講生の希望や志向を考慮して企画を行っているが、受講申込者数が一定の人数を下回った場合、費用対効果の観点から閉講する講座がある。しかし閉講しないような講座の企画を地域連携センターと講師との協議で工夫することで、開講率は平成 28 年度に比べ 9.1%上昇している。

他方平成 29 年度の受講者数は、年間で 36 名増とはいえ、概ね横ばいとなった。これは同じ講師の講座を受講者が継続受講していることが主因と考えられる。つまりリピーターに支えられているものの、新規に受講を希望する方を受け入れる容量（受け皿）が不足しており、稲毛駅前センターの教室拡大がない限り受講者数を増やすことはできないということである。この問題を解消し、かつ本事業を更に発展させるため、平成 29 年度は新たな駅前センターの物件を探す検討も行ったが、幸いなことに平成 28 年 5 月から入居中のこみなと稲毛ビルで、床面積がより広い物件への転居をすることが叶い、平成 30 年度は教室を 1 つ増やし、2 教室体制でより多くの受講者を受け入れることが可能になった。

② 受講料収入

受講料収入	28年度	29年度	差
前期	￥ 11,603,600	￥ 11,943,600	￥ 340,000
後期	￥ 9,945,400	￥ 10,633,900	￥ 688,500
年間	￥ 21,549,000	￥ 22,577,500	￥ 1,028,500

一部の講座について、受講料の見直しを行った結果、平成 29 年度は年間で約 100 万円の受講料収入増加となった。

（帝国データバンクから受託しているビジネス講座等の収入を入れると、約 2,700 万円の収入となる。）

なお学園事務局と相談の上、平成 30 年度からは生涯学習講座の予算を収益事業化することとした。

③　生涯学習センター（駅前センター）の拡大

上述の通り、市民の高い学習意欲に応えるため、平成 29 年 1 月にこみなと稲毛ビル 6 階（33.76 坪）から同ビル 3 階（47.22 坪）に移転することをこみなと興産（株）と合意、同 2 月 28 日付で賃貸借契約を締結した。これにより平成 30 年 4 月、同ビル 3 階に生涯学習センターを移転設置した。

またこれを機に、生涯学習センターウェブサイトを一新し、豊富な講座の紹介やウェブ上からの受講申込み手順の簡素化などを実現した。さらに紙媒体だけでなく、京成バスの JR 稲毛駅発着便（一日約 530 本）の車内アナウンスでも生涯学習センターの広告放送を開始し、周知に努めた。

（ https://lifelong.u-keiai.ac.jp/ ）

④　運営スタッフの見直し

生涯学習センターの講座開設時間はいわゆる「9 時 5 時」とはいかず、日によっては朝は 7 時 30 分から、夜は 21 時すぎに及ぶものもあるため、直接雇用のスタッフでの運用が困難であった。そのため平成 28 年 10 月から人材派遣会社から 3 名の女性スタッフを派遣していただいてきた。

これに伴う高い人件費を削減するため、平成 30 年度から 2 名のシニア短時間アルバイトを主に終業時間にかけて雇用することとし、派遣スタッフを 1 名減じることとした。

6-2. 平成 29 年度実績（ボランティア活動、地域連携活動）

① 概要

本学の学生は、ボランティア活動への意欲が高く、当センターが主催・斡旋する活動のみならず、大学内外の諸団体における自主的な活動も多数行われている。また当センターの前身であるボランティアセンター発足時に決めた、ボランティア活動への単位認定不実施にも関わらず、よく相談に来てくれる。日頃の積み重ねが評価され、学生のボランティアサークル 2 団体が学外の諸団体から表彰を受けたのは、大変喜ばしいことであった。

またボランティア活動だけでなく、地域連携活動にも熱心に参加する姿が見受けられ、それらの経験を日々の正課活動、正課外活動にも活かしているのは、高く評価したい。

地域連携センター発足と同時に取り組んだ新事業では、現役学校教師向けセミナーである「英語教師授業力ブラッシュアップセミナー」は、主任講師である向後教授のご尽力により高い評価を得た。また千葉市との連携で実現した「パラスポーツ交流会」（大学祭の中で実施）は、千葉市や競技団体はもとより東京オリンピック・パラリンピック組織委員会からも評価された。

大学で学ぼう

「エクステンションセンター」ガイド

敬愛大学

脳を活性化させる講座

敬愛大学では、語学、文化・健康などの講座を実施。8月以降開催のおすすめ講座を紹介しよう。

8月10日からは、「脳を活性化させるトリビア（雑学）講座」（全4回・8200円）。テーマは〝千葉県、健康と長寿、お酒と文化史、マグロと寿司、外国語と英語〟など。資料やデータを基に、クイズも交えて理解を深め、楽しく学習できる。

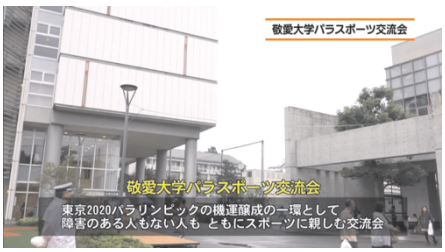
23日と30日は、「学び直しの地理―房総から世界まで―」（全2回・3200円）。2日？

29日からは、「イタリア語 超入門講座」（全4回・7500円）。イタリア語が話せるようになりたいけれど、ついていけるか不安という人向けの講座。挨拶や自己紹介、ちょっとした買い物など日常会話を学ぶ。

9月5日と12日は、「中国茶を聞く ～中国茶を味わう体験～」（全2回・5200円）。簡単な中国語のレッスンも交えながら、中国茶を味わう。第1回は、さまざまな烏龍茶の紹介と中国茶のいれ方体験。第2回は、代表的な中国茶6種類と花茶、工芸茶などの紹介。

敬愛大学生涯学習センター（千葉市稲毛区小仲台2の3の12）こみなと稲毛ビル6階☎043・425・6420。問い合わせ時間は平日9～17時。入会金は不要。

※申し込みはホームページ、右記窓口、FAXまたは封書・はがき。各講座の受付締め切り日までに必着。先着順で定員になり次第、締め切り。



さまざまな事業は学内関係部署の協力あってのものであるが、大学公式ホームページはもとよりプレスリリース等で効果的な広報をおこなってくれた IR・広報室の皆様には、特に記して御礼申し上げたい。当センターが取り組んだ活動のうち、新聞・雑誌等への掲載多数のほか、テレビ取材 2 件、ラジオ出演 1 件は初年度としては十分すぎる成果であったといえる。

【写真】

左　　夕刊フジ 平成 29 年 7 月 26 日掲載

右上 3 枚　JCOM 千葉 平成 29 年 10 月 16 日放送

右下 1 枚　J-WAVE 平成 29 年 6 月 14 日放送

② 主な事例

◆パラスポーツの普及協力

千葉市内でオリンピック 3 種目、パラリンピック 4 種目が開催されるのを機に、千葉市が推進する「パラスポーツの普及」に、敬愛大学も全面的に協力。市、競技団体と連携して開催した「パラスポーツ交流会」は、市と大学が連携して初めて行なわれたこと、また一般来場者の多い大学祭で行われたことから、市や東京オリンピック・パラリンピック組織委員会からも注目事例とされている。

◆本学学生の区民対話会等への派遣

区主催の「区民対話会」「大学生との意見交換会」に、稲毛区長からの依頼を受けて本学学生を派遣。

平成 29 年度の大学生との意見交換会では、「ちばレポ」（千葉市内で起きている様々な課題を、ICT を使って市民がレポートすることで、市民と市役所、市民と市民の間で、それらの課題を共有し、合理的・効率的に解決することをめざす仕組み）、「文教のまちづくりを推進するための方策」（特に音楽とスポーツの側面からの意見交換）のテーマで行われた。この企画には、経済学部金子ゼミ、公務員指導室の学生をはじめ、公務員志望の学生等が毎回多数参加している。

◆稲毛区、稲毛区内町内自治会活動への参加

・稲毛区民まつり　　学生が実行委員会に参画

・区内大型イベントの参加　　稲毛せんげん通りまつり、稲毛あかり祭「夜灯」 等

・町内自治会、商店街、コミュニティセンター事業への参加

穴川町会、穴川商栄会、小仲台商栄会、シャルム西千葉自治会、稲毛東 5 丁目自治会 等

・区等主催行事への参加　　穴川コミュニティセンター避難所開設・運営訓練 等

◆宮城ボランティア 2017

「見て、聞いて、話して、そして繋がって」をテーマに、8 月 6 日～8 日の 2 泊 3 日で開催、本学学生 19 名と本学系列校の敬愛学園高校生徒 1 名が参加。第 1 回から続く尚絅学院大学（宮城県名取市）とのご縁で、今年は聖学院大学（埼玉県上尾市）も加わってのボランティア学習会が実現。また初の試みとして、宮城県内だけでなく福島県内でも活動を実施した。（別途報告書あり）

◆英語教師授業力ブラッシュアップセミナー

国際学部に向後教授が着任したことを契機に、生涯学習の発展形として企画。「これからの中・高英語教師に求められること～学習指導要領の改訂を控えて」をテーマに、向後教授による基調講演に加え、高等学校 2 名・中学校 1 名の教員を招いて授業実践を披露していただいた。

千葉県内を中心に参加者はのべ 91 名にのぼった。首都圏はもとより遠くは高知県からも参加者があり、向後教授の講演や先進的な授業実践に大いに学ぶ機会を提供することができた。

◆神崎町との教育活性化に関する連携協定の締結

敬愛大学では平成 27 年 2 月に佐倉市、平成 27 年 3 月に千葉市と包括連携協定を締結しているが、国際学科（英語科指導法）の井上特任教授の取り組み（神崎町の小学校での英語教育活動支援）を後押しするため、新たに神崎町と教育活性化に関する連携協定を締結する準備を行い、平成 29 年 12 月 14 日に神崎町役場で締結式を執り行った。

◆「若者と市長が語り合う会」への学生派遣

千葉市こども未来局が淑徳大学に委託して進めている「千葉市こども若者市役所」の取り組みの一環として企画され、「東京オリンピック・パラリンピックに向けて、私たちができること」のテーマで熊谷俊人市長や他大学の学生たちと意見交換を行った。

敬愛大学からは平成 29 年 10 月に大学祭「敬愛フェスティバル」で開催した「パラスポーツ交流会」の運営に関わった学生 2 名が、運営者・参加者の経験から学んだこと、また 2020 年のオリンピック・パラリンピックへの機運醸成に必要と考えることを発表、各大学からの発表後は熊谷市長の進行で意見交換を行い、様々な気づきを共有した。

◆「千葉市内大学間研究会」の発足

地域内における大学間、行政や産業界と連携した教育研究の事例が注目され、多くの地域で取り組みが進められていることから、淑徳大学、敬愛大学、神田外語大学が発起人となり、千葉市内の大学において複数の大学で連携すること、千葉市や市内外の民間企業者とも連携を図っていく地域プラットフォームを立ち上げることをめざし、千葉市内大学間研究会を立ち上げた。

第 1 回研究会は平成 30 年 1 月 29 日に淑徳大学にて開催、発起人を代表して淑徳大学（矢尾板俊平地域連携センター長）の進行で各大学の取り組みを共有すると同時に、千葉市役所政策企画課から講師を招きし、意見交換を行った。

◆学生ボランティア団体の表彰

ボランティアサークル ちばくりん敬愛支部 … 千葉市を美しくする会 会長表彰（平成 29 年 4 月）

教育ボランティアサークル Iris … 一般財団法人学生サポートセンター学生ボランティア団体表彰

いずれも地域連携センターが窓口になり、各団体に繋いだ結果である。

ちばくりん敬愛支部

Iris

7. 今後の展望

平成 29 年度末に小阪センター長と藤森室長で意見交換を行い、平成 30 年度の組織目標および職責表を以下の通り定めた。

（組織目標）

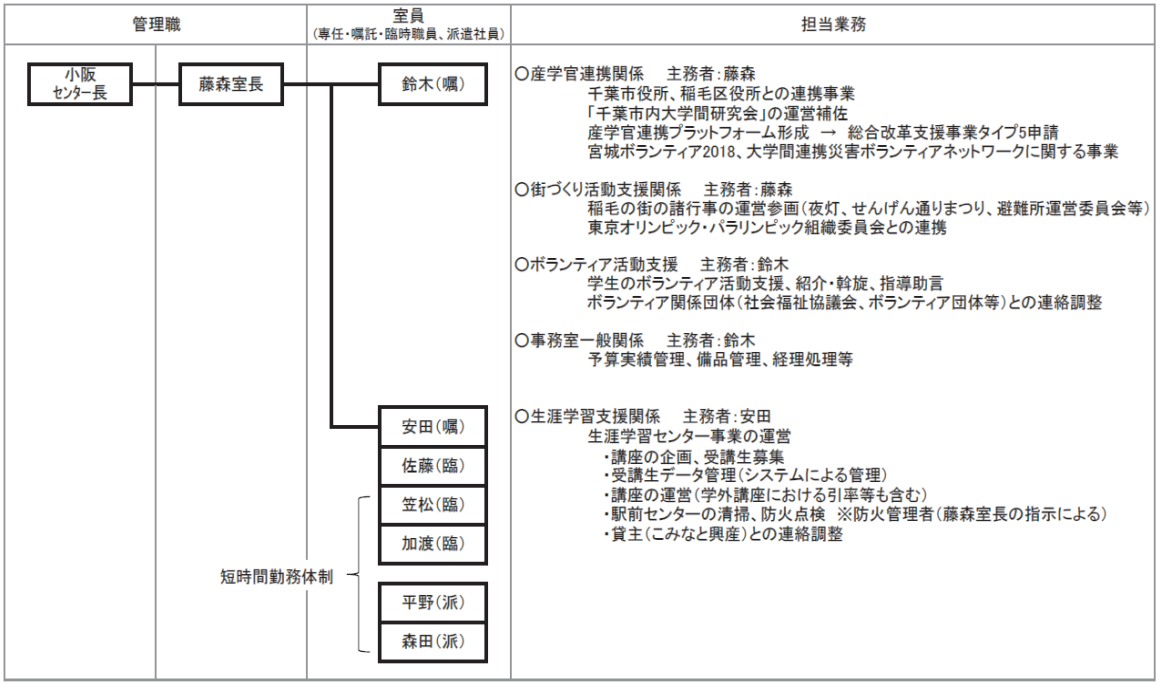
人員増の要望が実ったことを受け、限られたリソースを最大限有効に使い、与えられた環境の下、最善の組織実現をめざす。具体的には、

1. 学生のボランティア意識の涵養により一層努め、正課外におけるボランティア学習の機会をより多く提供する。特に「宮城ボランティア」と「東京オリンピック・パラリンピックの機運醸成」の充実に努める。
2. 拡張した生涯学習センターの事業に関し、採算を可能な限り単年度黒字にすることに引き続き注力する。同時に「地域の伴走者」として、人生 100 年時代によりふさわしい事業内容を実現する。
3. 所管業務に遺漏無きよう業務品質の向上を図るため、室員一人ひとりが更なる自己啓発に努める。
4. 学内の他部署はもとより、学園傘下の各学校や学外の関係機関とのコミュニケーションの充実に一層努め、事業の充実を図る。特に所管業務の中で、文部科学省「私立大学等総合改革支援事業」タイプ 5 の申請、採択の実現に注力する。

（補足）

2年目の立場としては、1年目同様「大学の」の地域連携センターとして最大限機能させるものの、理事長・学長から1年目の期中に与えられた中期的な目標である、「学園大の地域連携業務を行う組織」への将来の発展的組織拡張の準備も行う。即ち、「オール敬愛」の地域連携業務部隊として機能するための布石を打つ。

（職責表）



自己点検・評価委員会で取りまとめる年報では、「課題 9：社会連携・社会貢献」に、次の 3 点が次年度への課題として挙げられている。

(1) 新設された「地域連携センター」を直接所管する委員会がないため、運営委員会を設置すること。またそれによる社会貢献活動への教職協働強化を行うこと。

(2) 生涯学習センターにおける専任教職員による講座設置を強化すること。

(3) 弾力的な職員の配置変更により、主務者以外の若手・中堅職員にも実務の継承を行うこと。

平成 30 年度はこれらの課題を克服すると同時に、他部署、他大学、関係機関と連携して、より深みのある地域連携活動の実現に努めたい。

以上

地域連携センター　事業報告　（平成29年度）

【主催事業】

カテゴリー	事業名	時期	関係機関	参加人数
実施済み事業	宮城ボランティア2017	8/6～8	尚絅学院大学、聖学院大学、仙台市危機管理室他	20名（高校生1名含む）
	英語教師授業力　ブラッシュアップセミナー	8/22・23	千葉県教育委員会、千葉市教育委員会、千葉県私立中学高等学校協会	91名
	パラスポーツ交流会	10/14	千葉市オリンピック・パラリンピック推進課、千葉市障害者フライングディスク連盟ほか	62名
	いわきボランティア学習会	11/4・5	ゆうゆうファーム、薄磯区会、薄磯復興協議委員会	11名
	敬愛大学と神崎町との教育活性化に関する連携協定締結	12/16	神崎町教育委員会	－
継続中事業	千葉市内大学間研究会	継続中	淑徳大学、神田外語大学、他	－

【活動を紹介し、学生を派遣した事業】

カテゴリー	事業名	時期	派遣先	派遣人数
①教育支援ボランティア	生活保護世帯、生活困窮家庭の中学生に対する学習支援事業	通年	千葉市保健福祉局 保護課	12名
	知的障害児童の課外活動支援	3/20	社会福祉法人恵泉福祉会「マナの家」	1名
②地域活性化ボランティア	まちスポ稲毛	通年	NPO法人 まちづくりスポット稲毛	2名
	こどもカフェ	通年	NPO法人　VAICコミュニティケア研究所	4名
	子育て支援ステーション ニッセ	通年	子育て支援ステーション ニッセ	1名
	稲毛区長と大学生の対話会（第1回）	7/5	稲毛区地域振興課、千葉市広報広聴課	7名
	稲毛せんげん通りまつり	7/14・15	稲毛せんげん通りまつり実行委員会	60名（2日間延べ）
	稲毛東5丁目自治会 盆踊り	7/29・30	稲毛東5丁目自治会	10名
	避難所開設・運営訓練	9/4	穴川コミュニティセンター避難所運営委員会、千葉市稲毛区役所 地域振興課くらし安心室	8名
	ハロー！でいさく2017	10月21日	社会福祉法人千葉市手をつなぐ育成会（地域生活支援センターふらる、でい・さくさべ）	1名
	第12回稲毛あかり祭「夜灯」	11/19・20	稲毛あかり祭夜灯実行委員会	60名（2日間延べ）
	ENGLISH CAMP	11/3・4	大網白里市教育委員会　生涯学習課	1名
	稲フェス2017	11/19	稲毛活性化プロジェクト「いいね稲毛」	8名
	稲毛区長と大学生の対話会（第2回）	12/6	稲毛区地域振興課、千葉市広報広聴課	7名
	第6回とみさと市民活動フェスタ	2/10	富里市　市民活動推進課	3名
	千葉市長とのランチミーティング	3/7	千葉市	1名
	若者と市長が語り合う会	3/18	千葉市、淑徳大学、神田外語大学、帝京平成大学、千葉経済大学	2名
③災害復興支援ボランティア	Gakuvo復興支援（福島県いわき市）	5/19～21	日本財団学生ボランティアセンター	2名
	千年希望の丘植樹祭2017（宮城県岩沼市）	5/24～27	公益財団法人 鎮守の森のプロジェクト	1名
	平成29年度大学間連携災害ボランティアシンポジウム	12/16	大学間連携災害ボランティアネットワーク　他	2名
⑥その他ボランティア	平成29年度千葉県学生ボランティアミーティング	2/12	千葉県社会福祉協議会 学生ボランティアミーティング実行委員会	12名

【学生が自主的に活動している事業】

カテゴリー	事業名	時期	関係機関	参加人数
①教育支援ボランティア	教育ボランティアサークル　Iris	通年	千葉市立高浜第一小学校、高浜ショッピングセンター	60名
②地域活性化ボランティア	ボランティアサークル　Love and Action	通年	NPO法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会（JFSA）	25名
④大学横断型ボランティア	ボランティアサークル　ちばくりん敬愛支部	通年	千葉市廃棄物対策課、千葉大学、神田外語大学	12名

敬愛大学地域連携センター

年次報告書　平成 29 年（2017 年）度

平成 30 年 5 月 1 日　発行

編集・発行　　敬愛大学地域連携センター
〒263-8588 千葉市稲毛区穴川 1-5-21
TEL　043-251-6364（直通）
FAX 043-284-2376（直通）
URL http://www.u-keiai.ac.jp/research/renkei_center/
MAIL renkei@u-keiai.ac.jp